

温故知新

平成二十七年 安全大会 ご挨拶

平成二十七年安全大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、平素より当社の災害防止活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、本日ここに栄えある表彰を受けられる方々、誠におめでとうございます。

さて、皆様に毎年、お話をさせて頂いています『指差呼称、1人KYの実施』をお願いしていますが、今年、指差呼称推進、ステッカーを作業員皆さんのヘルメットに貼っていただき、現場での実践に向けて展開しています。

「足元ヨシ」 まずは、この言葉の重要性を心と体に身に着けて頂きたいです。

ご存じのとおり、実際に現場に存在する危険の芽を摘み取るのはKY活動です。

また、慣れや過信といったヒューマンエラーを無くすには、リスクアセスメントの精度を高める事も効果的です。

この手法を使い、うまく機能させる為にも指差呼称はもっとも有効な手段で、安全への第一歩だと思います。

災害の原因となる人的ミスを無くすためにも『指差呼称、1人KYの実施』を必ずやりましょう。

今後も野田工業は、『墜落転落の危険0』『災害の原因となる人的ミスの根絶』を目標に、災害0を目指して行きます。

そして、最も大事なことは、みなさん一人ひとりの安全に対する取り組みの積み重ねです。

明日は我が身の精神です。

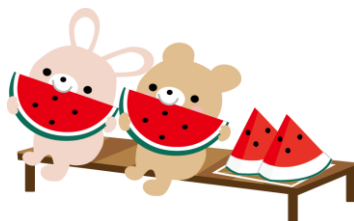
このためめ努力こそが安全な職場を作り、自分たちの職場を安全で働きやすい環境にすべく、全員が一致団結し、安全衛生活動に取り組んでまいりましょう。

最後になりましたが、猛暑のみぎり、皆様方ならびご家族のご健康をお祈りしまして私の挨拶とさせていただきます。

野田工業株式会社 代表取締役 関口嘉之

【今号の主な内容】

- P① ご挨拶
- P② 指差呼称の手順
- P③ 熱中症
- P④ 職長会お知らせ



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
花菱ビル5F
TEL: 03-3572-1866

指差呼称の手順

一般的に、「指差呼称」は以下の手順で行われます。

(1) 対象をしっかり見る

(2) 対象を指で差す

呼称する項目を声に出しながら、右腕を真っ直ぐ伸ばし、対象から目を離さず、人差し指で対象を指差します。

なお、指を差す際、右手の親指を中指にかけた「縦拳」の形から、人差し指を真っ直ぐに突き出すと、指差しが引き締まります。

(3) 差した指を耳元へ

差した右手を右の耳元まで戻しながら、「本当に良いか(正しいか、合っているか)」反すうし、確かめます。

(4) 右手を振り下ろします

確認できたら、「ヨシっ!」と発声しながら、対象に向かって右手を振り下ろします。



私たち野田工業(株)では今後、重点項目として、指差呼称の励行を各作業員に徹底して災害の撲滅に役立てて頂き、明日は我が身の基本精神を持って

足元よいか? 足元よし!

この言葉を繰り返し、周りの作業員の方や現場全体の災害防止に役立ててください。

熱中症の予防方法と対処方法

熱中症はどのようにして起こるのか？

熱中症を引き起こす条件は、「環境」と「からだ」と「行動」によるものが考えられます。

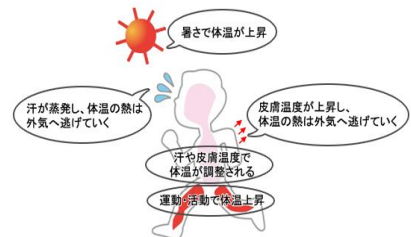
「環境」の要因は、気温が高い、湿度が高い、風が弱いなどがあります。

「からだ」の要因は、激しい労働や運動によって体内に著しい熱が生じたり、暑い環境に体が十分に対応できないことなどがあります。

その結果、熱中症を引き起こす可能性があります。

人間の身体は、平常時は体温が上がっても汗や皮膚温度が上昇することで体温が外へ逃げる仕組みとなっており、体温調節が自然と行われます

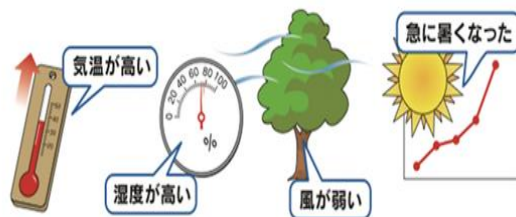
平常時の体温調整反応



熱中症を引き起こす3つの要因

・要因その1 環境

- ・気温が高い
- ・湿度が高い
- ・風が弱い
- ・日差しが強い
- ・閉め切った屋内
- ・エアコンの無い部屋
- ・急に暑くなった日
- ・熱波の襲来



・要因その2 からだ

- ・高齢者や乳幼児、肥満の方
- ・糖尿病や精神疾患といった持病
- ・低栄養状態
- ・下痢やインフルエンザでの脱水状態
- ・二日酔いや寝不足といった体調不良



・要因その3 行動

- ・激しい筋肉運動や、慣れない運動
- ・長時間の屋外作業
- ・水分補給できない状況



環境 からだ 行動
これら3つの
要因により

熱中症を引き起こす可能性があります！



熱中症を予防するにはどうしたらよいの？

涼しい服装

日陰を利用

日傘・帽子

水分・塩分補給



- ・無理をせず徐々に身体を暑さに慣らしましょう
- ・室内でも温度を測りましょう
- ・体調の悪いときは特に注意しましょう

ことわざ・格言にならう安全衛生訓

○刀の刃を渡るが如し○

～作業前の安全段取りをしっかり～

「刀の刃を渡るが如し」とは、非常に大きな危険をはらんだ仕事のことをいいます。

まわりの人はハラハラして見ているのに、当人は平気な顔でやっている、ということがあります。

高所作業の専門家などがそうですが、しかし専門家といえども、墜落防止の対策と技能が伴っていないと、重大な災害に結びついてしまいます。

高所作業に限らず、危険を伴う作業は、事前に危険を取り除くことが必要ですし、もっと進んで、作業の中に潜む危険を予知・予想して危険を掘りおこして対策を講ずるべきでしょう。

粹がって、わざわざ危険を冒す人もいるようですが、当人に危険が及ぶばかりではなく、ハタ迷惑の場合も少なくありません。

また、作業前の段取りが悪いから危険な作業をせざるを得ない、という側面もあります。

刀の刃を渡るような作業をしなくて済むように、作業手順を守り安全対策をしっかり行って作業にかかりましょう。



《職長会のお知らせ》

★日時 平成27年8月20日（水）

★時間 18時00分～

★会場 ニュー新橋ホール 地下2階

